

# 第3部

# 戦略プラン

## (総論)

1 戦略プラン策定方針

2 戦略プランの構成と期間

3 進捗管理及び評価

4 市民意識調査等の実施

5 目指すまちの姿と4つのテーマ

# 1 戦略プラン策定方針

## (1) 策定の趣旨・方針

近年、少子高齢化の進展による人口減少を始め、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、市民の日常生活や経済活動が大きく変化している中で、現在の課題を的確に捉えて取り組む『戦略的なまちづくり』が求められています。

本市はこれまで、長期ビジョンで示した将来都市像「みんなでつくる やすらぎと生きがい 賑わいのある都市 坂東」の達成に向けて、2018（平成30）年1月から2022（令和4）年3月までを計画期間として、「第1期戦略プラン」を策定して、各種施策に取り組んできました。

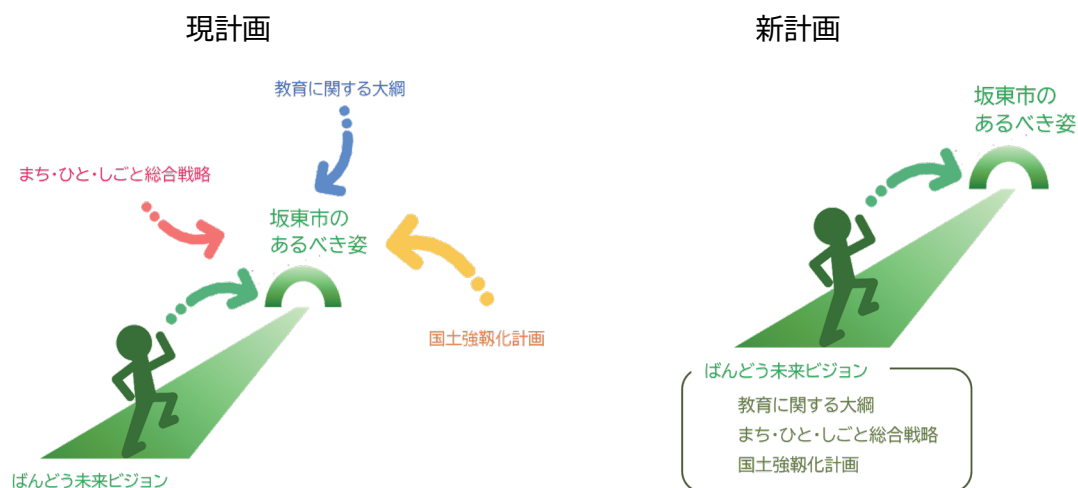
このたび、第1期戦略プランの期間終了をうけ、これまでの取組内容に関する評価と改善を行うとともに、喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症への対策や少子高齢化の進展などの社会情勢の変化を踏まえ、2022（令和4）年度から2025（令和7）年度までの4年間を計画期間とする「第2期戦略プラン」を策定します。

第2期戦略プランの策定にあたっては、第1期で位置付けられた政策の連続性・一貫性を踏襲しつつ、今後新たに取り組むべき重点施策を精査・追加することで、よりバージョンアップした取組を目指します。

## (2) 第1期戦略プランからの変更点

### ① 計画の中に「坂東市教育に関する大綱」「坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「坂東市国土強靱化計画」を包含しました

ばんどう未来ビジョンの中に、坂東市教育に関する大綱、坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略、坂東市国土強靱化計画という、3つの主要な計画を包含しました。このことにより、各計画の目指すべき方向性が一体的に整理され、明確な進捗管理が図れます。



各計画の目指す方向が一体的に整理され、明確になる。

第2期戦略プランで一体的に作成する計画の概要

坂東市教育に関する大綱

本市の教育、学術および文化の振興に関する総合的な施策の方針を位置づけたものです。

坂東市まち・ひと・しごと創生総合戦略

まち・ひと・しごと創生法の趣旨を踏まえ、持続可能な地域づくり（地方創生）に向けた基本目標や施策の方向性をまとめたものです。

坂東市国土強靱化計画

国土強靱化基本法の趣旨を踏まえ、強くてしなやかな坂東市づくりを推進する計画です。

② SDGs\*の考え方を取り込みました

本計画では、戦略プランの項目とSDGsとの関連性を明記することで、SDGsが目指す17のゴール（目標）と169のターゲット（取組・手段）と、戦略プランとの関係性をより明確にしました。



③ 分野横断展開を設定しました

戦略プランでは4つのまちづくりテーマに定めた方針の達成に向けて、重点施策・重点事業を掲げ、PDCAサイクルによる進捗管理のもと、進捗されています。一方で、重点事業は1つのまちづくりテーマに限られた事業効果のみではなく、様々な事業が複合的に効果を発揮する観点から、長期ビジョンの達成に向けた事業の成果を横断的に捉える指標を設定しました。

## 2 戦略プランの構成と期間

### (1) 戦略プランの構成

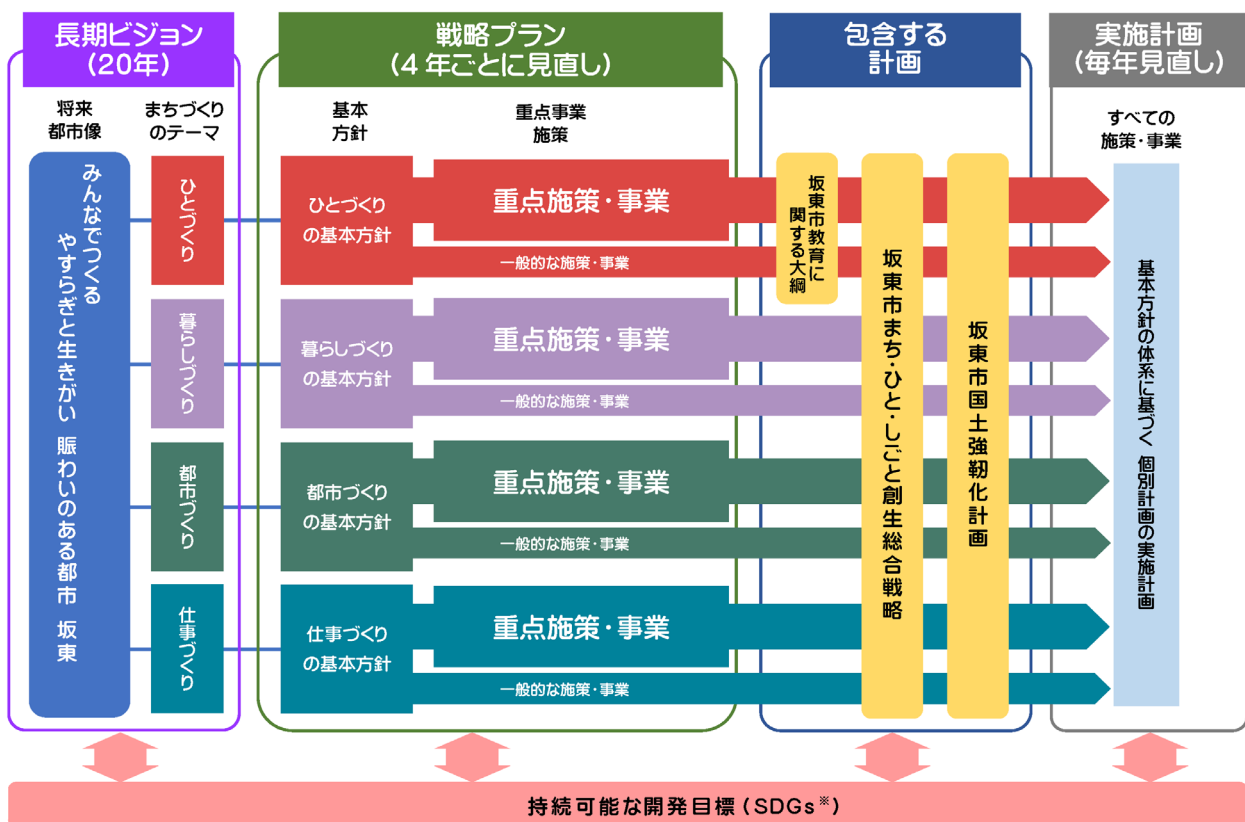
戦略プランでは、将来都市像の実現に向けて、長期ビジョンで掲げたまちづくりのテーマ「ひとづくり」「暮らしづくり」「都市づくり」「仕事づくり」に基づく基本方針を定めま

す。そして、市長政策や市民意識調査等の分析を踏まえ、特に重点的に推進すべき施策や事業を「重点施策と重点事業」として設定するとともに、重点的に予算措置を行い、積極的に取り組むこととします。

なお、戦略プランにおいて、重点施策及び重点事業に位置付けられていない施策や事業においても、将来都市像の実現に向け、本市の行う一般的な施策及び事業として取り組み

### (2) 戦略プランの期間

戦略プランの期間は、市長の政策構想が十分反映、実行されるよう、市長任期を考慮し、2022（令和4）年度から2025（令和7）年度までの4年間とします。



### 3 進捗管理及び評価

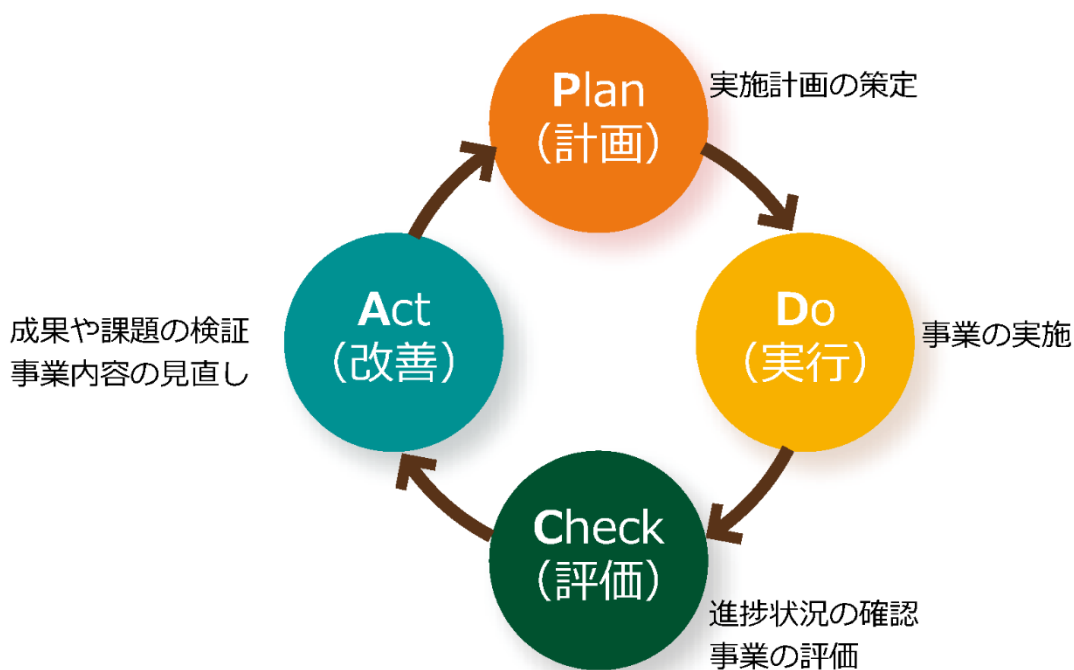
#### （1）戦略プランの進捗管理

戦略プランを推進するための具体的な事業計画として、毎年度ローリングシステムによる「戦略プラン実施計画」を策定します。

戦略プラン実施計画では、戦略プランに基づく4年間の事業計画を記載するとともに、毎年度、成果や課題等を検証し、事業の進捗状況を把握します。特に重点施策と重点事業については、指標等を用いて進捗状況について定量的な評価を行います。

また、戦略プラン実施計画を進めるにあたっては、PDCA（計画→実行→評価→改善）サイクルにより、適切な進捗管理を行います。

#### 戦略プランの進捗管理【PDCAサイクル】



#### 『PDCAサイクルとは』

PDCAサイクルとは、計画、実行、評価、改善を回していく手法です。計画から改善までを1つのサイクルとして、何度もサイクルを回し続けることで、計画が適切に策定され、実行し、適切に評価されるシステムを示したものです。

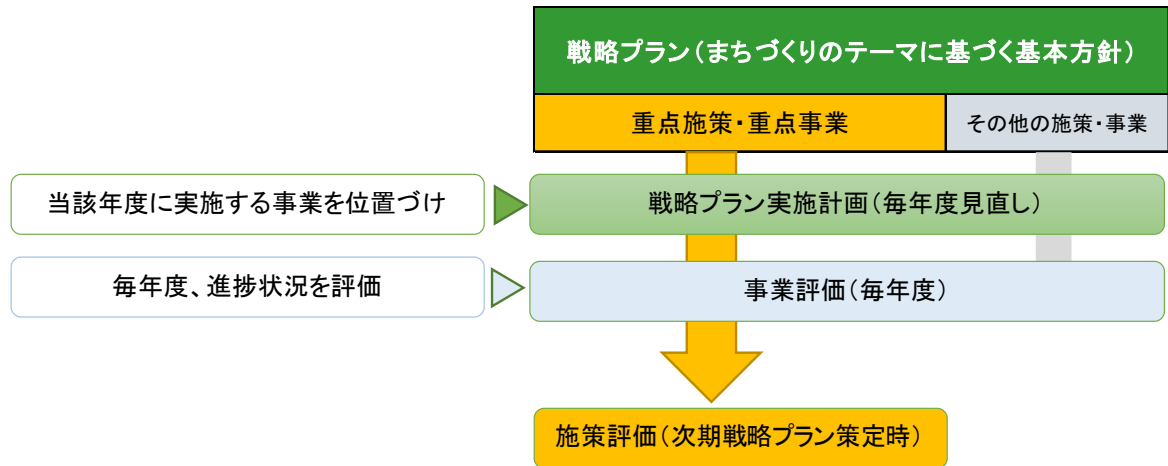
## (2) 施策評価及び事業評価

戦略プランの評価にあたっては、「施策評価」と「事業評価」を実施します。

施策評価は、次期戦略プラン策定時に、現在の戦略プランに位置付けた施策の実施状況や成果を総括し、最終評価するものとして位置付け、本計画の最終年度に実施します。

また、事業評価は、戦略プランに位置付けた事業やその他一般的な施策・事業を含めた取組を評価するものと位置付け、毎年度実施します。

### 戦略プランの評価方法



### 施策評価と事業評価の実施時期

		2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)
市長任期		4年				4年				
ばんどう 未来 ビジョン	長期ビジョン	H30.1スタート				20年				
	戦略プラン	第1期					第2期			
事業評価の実施時期		評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価	評価
策定作業	施策評価				施策 評価				施策 評価	
	計画策定					次期戦略 プラン 策定				次期戦略 プラン 策定

## 4 市民意識調査等の実施

### （1）市民意識調査の概要

#### ①調査の目的

戦略プランの見直しを行うにあたり、市民の皆様の意向や市の施策への満足度などについて意識調査を行うことで、戦略プラン改定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

#### ②調査方法及び調査期間

2021（令和3）年3月～2021（令和3）年8月

	期間	方法
市職員アンケート	2021（令和3）年3月	市の電子システムを活用して実施
高校生アンケート	2021（令和3）年7月	市内の高校にて学校配布・回収
転入者・転出者 アンケート	2021（令和3）年7月	転入・転出の際にアンケートの協力を依頼
市民意識調査	2021（令和3）年7月10日～ 2021（令和3）年7月27日	65歳未満はWEB調査 65歳以上は郵送配布・回収
子育て支援アンケート	2021（令和3）7月～8月	乳幼児健診等の時に調査票を配布・回収

#### ③回収結果

回収状況は以下のとおりです。

	市民意識 調査	高校生 アンケート	子育て支援 アンケート	転出入者アンケート		市職員 アンケート
				転入	転出	
調査人数 (配布部数)	3,000	136	254	87	99	423
有効回収数	732	136	254	87	99	423
有効回収率	24.4%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



アンケートへのご協力  
ありがとうございました

## (2) 調査から見た本市の強み・弱みの分析

本市の現状や課題を明らかにするために実施した市民意識調査等の結果に基づき、本市の「強み」「弱み」「機会」「脅威」を整理しました。

本市の“強み” (アンケート結果等から見た本市の強み)	本市の“弱み” (アンケート結果等から見た本市の弱み)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然災害が少ない</li> <li>○公園・自然環境が豊か</li> <li>○住宅当たりの面積が広い</li> <li>○全国有数の生鮮野菜供給基地</li> <li>○夏ねぎやレタス、さしま茶等の銘柄産地</li> <li>○子育て家庭に対する補助等が充実している</li> <li>○治安が良い</li> <li>○街並みや街の雰囲気が良い</li> <li>○公共施設が優れている</li> <li>○市民の定住意向は高い</li> <li>○隣近所の関係が良く、地域での支え合いが充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公共交通の便が悪い</li> <li>○道路環境がよくない</li> <li>○医療体制が不十分</li> <li>○買い物の利便性が悪い</li> <li>○(特に女性の)働く場の選択肢が少ない</li> <li>○娯楽や外出して過ごす場所が少ない</li> <li>○結婚・出産・子育て支援が不十分</li> <li>○自慢したい・優れていると思うことが特にない</li> <li>○魅力を感じる度合いに地域差がある</li> <li>○地域のことを知る学習等の充実</li> <li>○学校教育環境への満足度が、特に保護者世代(20~40歳代)で低い</li> </ul>
“機会” (本市が飛躍するために有利な条件)	“脅威” (現在または将来に懸念される社会状況)
<ul style="list-style-type: none"> <li>○子育てや教育へのニーズ上昇</li> <li>○貧困対策や社会保障・健康・福祉に重きを置いたSDGs*の推進</li> <li>○「新しい生活様式*」「働き方改革*」等の浸透による地方回帰・移住の機運の高まり</li> <li>○国際化やLGBTQ*等の生き方を理解する多文化共生*社会の機運の高まり</li> <li>○首都圏中央連絡自動車道(圏央道)の4車線化</li> <li>○地域経営(選択と集中、長期的視点)</li> <li>○市民協働によるまちづくりの進展</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人口減少・少子高齢化の進行</li> <li>○東京圏への若者流出</li> <li>○自治体間競争の激化</li> <li>○扶助費*の増加</li> <li>○国内で頻発する自然災害</li> <li>○新型コロナウイルス感染症拡大等の予測不可なりリスク</li> <li>○高齢化の進展により地域で活動できる人の減少</li> <li>○商店街の活力低下</li> <li>○公共施設やインフラ等の老朽化</li> </ul>

市民意識と本市を取り巻く社会情勢を組み合わせた視点を整理しました。

強み×機会	強みをいかして伸ばす戦略
強み×脅威	強みをいかし脅威に対し強化するための戦略
弱み×機会	機会をみて弱みを改善するための戦略
弱み×脅威	最悪の事態にならない防衛のための戦略



本市の【強み×機会】【強み×脅威】【弱み×機会】【弱み×脅威】を踏まえ、今後のまちづくりにおける課題を以下のように整理します。

**その1 圏央道の4車線化などの機会をいかし、産業の積極的な事業展開を図る  
（強み×機会）事業機会をみて強みを伸ばし、更なる強化を図るための戦略**

本市の強み

- ・ 製造業が市内総生産※の中での割合が高く主要産業
- ・ 農業が全国有数の生鮮野菜供給基地で生産額も県内高水準
- ・ 夏ねぎやレタス、さしま茶等の生産が盛ん

機会

- ・ 圏央道の4車線化による広域交通の利便性向上
- ・ 市内工業団地の完売が近い

それらを踏まえた視点

- ・ 農業や製造業の担い手確保とさらなる活性化
- ・ 地理的優位性や圏央道等をいかした雇用拡大等に向けた積極的な事業展開
- ・ 観光やビジネスなどの交流人口の拡大  
以上により、地域経済の好循環を創出する

**その2 坂東市特有の優れた環境をいかす  
（強み×脅威）強みをいかし脅威に対し強化するための戦略**

本市の強み

- ・ 都心から50km圏の首都近郊であり、自然が豊か
- ・ 市民の定住意向が高い

脅威

- ・ 商店街の活力低下や、公共施設やインフラ等の老朽化
- ・ 国内で頻発する自然災害への対応

それらを踏まえた視点

- ・ 生活の基盤となる都市機能の適切な維持・更新
- ・ 公共インフラ老朽化への対応と耐震化
- ・ 市民、行政、事業者が連携したまちづくり
- ・ 多様な暮らし方が選択できる生活環境の提供による、  
移住・定住の推進

その3 自然災害が少ない、住宅当たりの面積が広いなどの特性  
(強み×脅威) 強みをいかし脅威に対し強化するための戦略

本市の強み

- 自然災害が少なく、自然環境も豊かである
- 一住宅当たりの面積が広い

脅威

- 就職や就学による若年層の流出が進み、人口減少が進行
- 人口減少による空き家・空き店舗の増加

それらを踏まえた視点

- 積極的な情報発信による知名度の向上
- 市の資源や魅力に触れたり知ったりする機会の創出が必要
- まちづくりのリーダーとなる人材の発掘・育成
- 空き家や空き店舗の活用等、眠っている地域資源\*の再生及び目的に応じた有機的な連携

その4 坂東市で学んだことを誇りに持てる教育の実現  
(弱み×機会) 機会をみて課題を改善するための戦略

本市の弱み

- 学校教育環境への満足度が、特に保護者世代(20~40歳代)で低い
- 本市の良さ、特徴の周知が十分でなく、高校生も同様の傾向

機会

- GIGAスクール構想\*によるデジタル教育の推進
- 長寿命化計画による教育施設の充実・ICT技術の教育環境へのさらなる取り込み

それらを踏まえた視点

- 魅力ある学校づくりを進める
- GIGAスクール構想を活用した教育水準の向上
- 情報活用に関する教育が必要

その5 人口の減少と、市外への若い世代の流出  
（弱み×脅威）最悪の事態にならない防衛のための戦略

本市の弱み

- 人口減少が急激に進行し、若い世代の流出が増加
- 少子化も同時進行し、年々出生する子どもの人数は減少
- 子育て世代においては、家庭の経済的負担や仕事と子育ての両立等が課題

脅威

- 少子化・高齢化の進展による不安
- 子育て世代における満足度の向上が必要不可欠

それらを踏まえた視点

- 子育て世代の不安や課題の解消による、更なる出生率の向上
- 未来の坂東を担う子どもたちへ投資の重点化

その6 高齢化の進展により地域で活動できる人の減少  
（弱み×脅威）最悪の事態にならない防衛のための戦略

本市の弱み

- 高齢者ひとり暮らし、夫婦のみの世帯が増加
- 地域で活動できる人が高齢化で減少

脅威

- 性に関する考えの多様化、外国人の増加、経済のひっ迫による生活の困窮や子どもの貧困等が進行
- 高齢化の進展により、医療費負担等への対応や介護、移動手段の確保などが課題

それらを踏まえた視点

- 生涯にわたり元気に活躍できるまちづくりの実施
- 市民、団体、事業者や行政などすべての人が力を合わせ、お互いが地域の中で理解し、支え合う仕組みを構築

## 5 目指すまちの姿と4つのテーマ

長期ビジョンでは、将来都市像「みんなでつくる やすらぎと 生きがい 賑わいのある 都市 坂東」を実現するために取り組むべき4つのまちづくりのテーマ 「ひとづくり」「暮らしづくり」「都市づくり」「仕事づくり」を設定しており、このテーマが相互に連携し合うことにより、バランスのとれた都市の姿を維持し、発展することを目指しています。

そこで、戦略プランでは、4つのまちづくりのテーマに基づき、それぞれ「基本方針」と「重点施策と重点事業」について整理しました。

### 目指すまちの姿（「長期ビジョン」より）

